CxSAST 8.5.0 GA 版をリリース！

新しい機能の実装や機能改善により、これまでよりも価値ある製品になりました。

概要

このバージョンで実装された新しい機能や機能改善は以下のとおりです。

- エンジン自動調整用 API
- Go 言語のサポート（ベータ版）
- SonarQube のサポート（ベータ版）
- CxOSA の機能改善
- スキャンエンジンの機能改善
- レポートの機能改善と新しいプリセットの追加
- ローカライゼーション（フランス語とロシア語に対応）
- IDE プラグインとビルドサーバの機能改善
- インフラの機能改善
- CxAudit の機能改善

リリース内容の詳細

エンジン自動調整用 API

- 新たに実装されたエンジン自動調整用 API では、柔軟なインフラ上でエンジンを管理します。変化し続けるスキャン処理の負荷に応じて、自動的にスキャンエンジンを作成/削除します。

Go 言語のサポート（ベータ版）

- Go 言語に対応したスキャンエンジンのベータ版をリリース
- サポート対象のフレームワーク/ライブラリ： Protocol Buffers（Protocol Buffers が出力する Go 言語用ファイルのスキャン）、Apache Cassandra

SonarQube のサポート（ベータ版）

- SonarQube プラグインのベータ版をリリース
- CxSAST から取得した最新のスキャンデータを SonarQube データベースに登録
- クオリティゲートのサポート： プロジェクトの合格/不合格の基準とする閾値も設定可能
- サマリバナーによる脆弱性の合計数と新しい脆弱性の数を表示
- 脆弱性をドリルダウンし、脆弱性の説明とコード内に存在する場所を表示
- 全体的な脆弱性と新しい脆弱性に関するセキュリティ上の改善対策を行うために必要な手間を定義のうえ自動的に計算し、結果をバブルチャートで表示

CxOSA の機能改善

CxSAST および CxOSA におけるスキャン結果のレポートを統合するための、TeamCity プラグインをリリース

CxOSA CLI のサポート：

- CxOSA と CxSAST スキャンの同時実行（コマンドオプション： -enableOsa）
- 既存プロジェクトに対する CxOSA スキャンの実行（コマンド： OsaScan）

新たに次のオプション機能をサポート：

- Match by Name： SHA-1 のハッシュ値でオープンソースのライブラリが識別できない場合には、指定のファイル名を用いて検証を実施（デフォルトでは無効）
- Undetected Libraries： WhiteSource によって識別されないライブラリを、レポート内で別のセクションに表示（デフォルトでは無効）

スキャンエンジンの機能改善

全般的な機能改善

- C#/Java/Scala のラムダ式に対するスキャンのサポート
- ポリモーフィズム機能のサポート強化
- モバイル端末用コードのサポート改善（Android および iOS）
    - 新しいクエリの追加
    - iOS の Plist ファイル（設定ファイル）に対するスキャンのサポート
    - Android の gradle ファイル（設定ファイル： マニフェストファイルの代替）に対するスキャンのサポート
- 複数言語における脆弱性カバレッジの向上
- マネージャサーバでエンジンのライセンスすべてを自動的に管理（エンジンサーバでのライセンスファイルのインストールは不要）

Java

- Spring の依存性注入： XML ファイルに定義されている Bean に対するスキャンのサポート
- 到達不能コードの検出能力が向上

JavaScript

- ECMAScript 6 のフルサポート
- CommonJS の require および exports メカニズムのスキャンに対する Node.js の機能改善
- ECMAScript 6 に変換（トランスパイル）された Typescript のスキャンのサポート

C#における新しい構造のサポート

- 名前付き引数とデフォルト引数
- 式形式の関数（ラムダ式）
- using static ディレクティブ
- nameof 演算子
- インデックス初期化子

ASP.NET MVC 向けの機能改善

- フレームワークにおける構文解析能力の向上
- 改善されたクエリによる脆弱性カバレッジの向上

ASP.NET Razor 向けの機能改善

- Razor で取り扱うファイルに対する構文解析能力の向上
- HTML における入出力のサポート
- XSS および SQL インジェクションの脆弱性の検出能力が向上

ASP.NET Core のサポート（ベータ版）

- ASP.NET Core に対応したスキャンエンジンのベータ版をリリース（デフォルトで有効）
- 非同期メソッドのサポート
- Entity Framework のサポート

レポートの機能改善と新しいプリセットの追加

- NIST（プリセットリストと、レポートのカテゴリに新規追加）
- FISMA（プリセットリストと、レポートのカテゴリに新規追加）
- STIG（プリセットリストのみに新規追加）
- XSS と SQLi のみ： 新たに追加されたこのプリセットは、まず最も重要な脆弱性を検出するために、新しいプロジェクトでスキャンを実行する際に推奨されるベストプラクティスです。

ローカライゼーション

CxSAST ユーザインターフェースで新たにサポートされるようになった言語は、以下のとおりです。

- フランス語
- ロシア語

IDE プラグインとビルドサーバ向けの機能改善

- Visual Studio 2017 のサポート
- 新しい TeamCity プラグインのリリース
- Jenkins プラグインの機能改善
    - レポートのフォーマットをアップグレード
    - フォルダ/ファイル単位でスキャン対象の追加/除外を行うインターフェースを新たに実装

- Bamboo プラグインの機能改善
    - 設定した時間範囲でインクリメンタル/フルスキャンを実行するためのビルド計画の設定

インフラの機能改善

- SQL Server 2016 のサポート
- SAML の署名： SAML IdP リクエストへの署名機能がサポートされるようになりました。これにより、IdP サーバに送信されるすべてのリクエストが、サービスプロバイダの証明書で署名されます。

CxAudit の機能改善

- CxQL は XPath を用いて、XML ファイルからデータを抽出できるようになりました。抽出されたデータは、スキャンに追加することが可能です。この機能を用いることで、スキャン結果の精度を向上させるために、カスタムルールを作成することができます。
- Web ポータルに限らず、CxAudit からも直接クエリをエクスポートすることができるようになりました。また、更新されたクエリだけを簡単にエクスポートすることも可能です。
- クエリが処理したデータをログ出力するため、新たに CxLog API が実装されました（CxDebug は廃止予定）。

バージョン 8.5.0 の入手について

新しいバージョンの入手や CxOSA の新しいアドオンの評価版については、こちらにお問い合わせください。

また、新しいバージョンの詳細についてはリリースノートをご覧いただくか、こちらまでご連絡ください。